

日本政治学会 会報

The JPSSA News

No.40

DEC.2000

理事長就任にあたって

堀江 湛

このたび、五百旗頭眞前理事長の後を受け継ぎ、日本政治学会の理事長に就任いたしました。微力ですが、会員各位のご協力を得て、この大任を果たしたいと思っております。

政治学会の任務は、会員各位の先端的研究についての情報を交換し、成果の発表の場を用意することによって、政治学会というアカデミック・コミュニティの会員各位の研究環境の改善と、学会における研究水準向上のお手伝いをする事だと思っております。私は理事長として、このような任務を、学会の開かれた運営を通じて進めたいと念じています。

ここで私は、開かれた学会という言葉に二つの意味を込めて用いています。そのひとつは、政治学会というアカデミック・コミュニティ内部の開放性であり、ひとつはこのアカデミック・コミュニティの、それを囲む社会全般に対する開放性についてであります。

本学会の会員の多くは、大学に勤務されていますが、今日我が国の大学は、先端的研究・ユニヴァーシティと、学部教育に重点を置いた教育重視型大学、さらにはコミュニティ・カレッジタイプの大学・短大への急速な分化が進んでいます。

リサーチ・ユニヴァーシティも大きな問題を抱えておりますが、限られた研究者で政治学の全領域の概説的講義をこなす、学生の生活指導まで職務範囲として取り組まなければならない学部教育中心型、あるいはコミュニティ・カレッジ型大学・短大教員の研究条件は、極めて厳しいものがあります。

また政治的研究における、首都圏や大都市圏と地方の大学の研究者の間には、圧倒的な情報ギャップが存在します。ともすれば埋もれ、無視されがちな、陽の当たらずぬ地方の学部教育中心型大学、コミュニティ・カレッジタイプの大学・短大の研究者

に、正当な評価を与える研究成果の発表の場を確保し、アカデミック・コミュニティにおける南北問題の解消に努力することも、政治学会の忘れてはならない重要な任務だと思っております。

今年の20世紀最後の政治学会の共通論題のひとつは、政治学は人の役に立ってきたのか？というテーマでした。アカデミック・コミュニティと、それを取り囲む全般的な社会との、情報の相互交流の問題です。科学が純粋な知的好奇心によって発展してきた側面、性急な有用性を求める政治的社会的圧力が、科学の発展をゆがめ阻害してきた側面を否定することはできません。しかし同時に、科学が同時代の社会の抱える問題点をいち早く指摘し、社会の要請に適った、迅速適切な問題解決への提言を試みることもまた、科学に携わる研究者の、担わなければならない社会的責任だと思っております。

政治学と政治学を囲む、全般的な社会の現実政治が、この半世紀の間に相互に接近し、その距離が著しく縮まってきたことは、まぎれもない事実です。政治的権力抗争の具になりかねないという危険にさらされながらも、自らの政治的信条と職業倫理に支えられて、敢然として市民の義務として研究成果を現実政治に活かす勇気が求められることも、忘れてならないと思っております。

大学生の学力低下が問題となっています。大学は、好むと好まざるに拘わらず、少子化と進学率の向上で、大学に学ぶ目的意識、動機づけ、基礎学力において極めて多様な学生を受け入れなければならなくなりました。政治学を履修するこのような学生に対する政治学教育の理念と手法の開発は、政治学の新しい課題であります。私の在任中に、この問題を取り上げる新しい部会を政治学会に設けることを、ぜひ提案したいと思っております。

2002年度『年報政治学』論文公募について

2002年度年報委員長 安 世舟

2002年度『年報政治学』の論文公募要領は下記の通りです。

1. 年報のテーマは「20世紀のドイツ政治理論」ですが、あわせて「日本におけるドイツ政治思想の受容」をも視野に入れた編集を行います。テーマとそれに関連する論文、およびその他の政治学に関連するどのようなテーマの下に書かれた論文でも受け付けます。
2. 分量は20,000字以内といたします。ハード・コピー（A4、40字×30行）3部を御提出下さい。なお、コピーは返却いたしませんのでご了承下さい。
3. 応募を希望される会員は、2001年3月末日までに、同封の申込用紙で応募登録をして下さい。その際、封書の表に「年報政治学論文公募」と朱

書して下さい。論文の最終締め切りは2001年11月末日といたします。

なお応募登録および論文の送付先は、
〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
大東文化大学法学部政治学科
安 世舟研究室です。

（電話 03-3935-1113 内線 4115

E-mail seiyasu@ic.daito.ac.jp）です。

4. 公募論文の採否は、年報委員会の下に設置する審査委員会の審査を経て年報委員会で決定し、2002年3月末日までに公募者へ連絡いたします。なお、採択された論文については、改めてフロッピーとハード・コピー1部の提出をお願いいたします。

2001年度研究会企画に関するお知らせ

2001年度企画委員長 藪野 祐三

2001年10月に立教大学で開かれる日本政治学会研究会の企画に関し、企画への提案、また自由論題の報告を会員の方々から募集することにいたします。なお採否に関しては企画委員会で決定いたしますので、あらかじめ御承知おき下さい。

<分科会企画の提案について>

・テーマを明確にした上で、司会、報告者2-3名、討論者1-2名を思いつきでよいからお書き下さい。

<自由論題への応募について>

・応募資格：日本政治学会員であること。

- ・報告条件：未発表の内容であること。2001年9月15日までに、報告論文を提出できること。
- ・応募の際の記入事項：題名・内容要旨（2000字程度）・氏名・所属・住所・電話番号

<宛先および締切>

・宛先 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学 法学部

藪野 祐三

（電話 092-642-3194）

・締切 2001年1月31日（消印有効）

研究業績自己申告のお願い

今年度も例年のように次の要領で会員の皆様の研究業績を『年報政治学』に「学界展望」として掲載します。同封の用紙に、主な業績の自己申告をお願いします。その際、各業績の〈専門分野〉を指定してください。なお、紙幅の都合により、自己申告の業績の全てを取り上げることができない場合もあります。ご了解願います。

- ①申告対象期間 2000年1月1日から同年12月31日までに刊行された業績
(できるだけ、抜き刷りまたはコピーの同封をお願いします。
お送り下さった図書・雑誌論文は、返却できませんので、ご了解下さい)。

2001年度文献委員長 藤本 一美

- ②業績本数 主要なもの1, 2点
③専攻分野 申告用紙に掲載した分野に○印を付けてください。
④締め切り 2001年1月31日(消印有効)
期限の厳守をお願いします。
⑤送り先 〒101-8425 東京都千代田区神田
神保町3-8 専修大学法学部

藤本一美
(送り先は、学会事務局ではありません。予算の関係で、封筒、切手などは各自で負担をお願いします)。

2001年度研究会のお知らせ

立教大学で開催予定の2001年度研究会の日程が決まりましたのでお知らせします。

日 時：10月13日(土)・14日(日)

例年と異なり、10月第2土曜・日曜となっておりますのでご注意ください。

年報委員会より

2000年度年報は例年通り12月刊行を目指しておりましたが、作業の進行が遅れ、1月刊行となりました。まことに申し訳ありませんが、今しばらくお待ちくださるようお願い申し上げます。

2000年度 第1回理事会記録

日 時：2000年6月3日（土）午後2時から5時
まで

場 所：早稲田大学大学会議室

第1回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

御厨2000年度委員長より、最新のプログラムが配布され、説明があった。また、公募の扱いについて若干の問い合わせがあり、ニューズレター等で改めて説明の必要がある旨報告された。

(2) 年報委員会

加藤節2000年度委員長（欠席のため常務理事代読）より、順調に研究会を進めていること、および自由論題の公募論文10本のうち3本が採用された旨報告された。

(3) 文献委員会

飯島2000年度委員長（常務理事代読）より、3月末に委員会を開き、方針等を最終確認したこと、8月末原稿提出予定であることが報告された。

(4) 国際交流委員会

蒲島副委員長より、IPSA世界大会開催の件については本日の審議に譲りたいこと、またサルトーリ教授の講演に多数の参加を希望している旨報告があった。

辻中（日韓交流）小委員長より、2名招聘のうち1名（Young-Kwan Yoon教授）が決まり、もう1名も早急に決定したいこと、韓国の学会への派遣については交渉中であること、韓国政治学会会長を含め数名が来日予定であることが報告された。

2. 事務局より

(1) 日本学術会議の件について

理事長より、本学会推薦の佐々木毅、村松岐夫両顧問が推薦人会議で当選した旨報告があった。

(2) 規約改正の件

理事長より、3月理事会の決定に基づき会員投票の手続きを進めており、6月半ば投票用紙等を発送する予定であること、内容を変えることのない若干の字句訂正があったこと、返信用葉書を局留にする都合上内封筒を入れ封書に変更したことが報告され、了承された。あわせて、実施に際して、各理事に協力が要請された。なお投票は7月末締め切りとし、理事立会いの下、事務局で開票を行う旨報告され、承認された。

また、今回の改正は規約の根幹部分に関わるものにとどまったが、規約検討委員会で検討した理事長選出規定等についても今後も継続して考えていきたい旨報告された。

(3) 『政治学会年報』復刻の件

理事長より、岩波書店から『年報』創刊号から30号までを復刻したいとの申し入れ（300セット以上、分売不可）があった旨報告され承認された。また、著作権・印税の扱い等につき、若干の議論があった。

3. IPSA 世界大会開催の件

蒲島国際交流委員会副委員長より、世界大会を日本で開催することにつき、配付資料に基づき説明があった。議論の結果、2006年度大会開催地に立候補すること、蒲島副委員長を中心に準備検討委員会を設置することが承認された。

4. 新入会員承認の件

以下の11名の入会が承認された。

青山円美、新井賢治、小高康熙、姜範錫、黒柳米司、佐賀香織、早川弘道、東田親司、廣瀬淳子、堀真清、山田澄子

5. 事務局より

幹事より、ニューズレター39号の発行が、学会事務センターとの連絡の都合上若干遅れている旨の報告があった。

2000年度 第2回理事会記録

日 時：2000年10月7日(土)午後0時から1時まで
場 所：名古屋大学

第2回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

御厨2000年度委員長より、7日午前中、共通論題「Securityの政治」が予定通り行われたこと、分科会のメンバーに関し若干の変更があったこと、および報告ペーパーの提出もほぼ終了、予定通り進行している旨報告がありました。

(2) 年報委員会

加藤節2000年度年報委員長より、年報刊行がやや遅れており1月となること、年報に公募論文10本のうち3本が採択された旨報告がありました。

馬場2001年度年報委員長より、研究会が順調に進んでいる旨報告された。

(3) 文献委員会

飯島2000年度委員長(欠席のため、理事長代読)より、9月末岩波書店にすべての原稿を提出した旨報告された。

(4) 国際交流委員会

大嶽委員長より、サルトーリ招聘に関し謝辞が述べられた。

小林(APSA)小委員長より、8月31日から9月3日の大会に新川敏光会員、西澤由隆会員、岩崎正洋会員の3名が派遣され報告を行ったこと、今大会分科会FでAPSA国際交流セッションがもたれる旨報告があった。

蒲島副委員長より、ECPRとの共同研究が現在第二期に入り、「政治意識」(代表：猪口孝)、「民主化」(同：大嶽秀夫)、「政治意識と市民社会」(同：佐々木毅、千葉真)、「政治経済体制」(同：久米郁男)の四つのグループが編成された旨報告があった。

辻中(日韓交流)小委員長より、今大会分科会Mにチン・チャンスー氏ら参加のもとセッションがもたれること、12月の韓国政治学会へは2名を派遣する予定であり、選考を進めたいこと、キム・ハクジュン韓国政治学会会長ら14名が来日、大阪

で交流会がもたれた旨報告があった。

2. IPSA 世界大会の件

蒲島国際交流委員会副委員長より、6月の理事会決定のもと、以下のメンバーで諮問委員会および検討委員会が設置された旨報告があり、承認された。

諮問委員会

五百旗頭真(共同委員長)、加茂利男、佐々木毅(共同委員長)、馬場康雄、堀江湛、村松岐夫、渡辺浩。検討委員会

飯島昇蔵、大嶽秀夫、蒲島郁夫(委員長)、北岡伸一、久米郁男、小林良彰、辻中豊、藤原孝、御厨貴、藪野祐三。

つづいて、開催決定後は組織委員会を設置する必要があること、8月1日-5日のケベック世界大会において、蒲島理事が執行委員に選出されたこと、2006年ワールド・ कांग्रेसには現在、日本以外にスペイン(マドリッド)、オーストラリア(シドニー)、イスラエル(エルサレム)が立候補しているが日本での開催が有力であること、2001年1月27日-2月1日南アフリカのダーバンで開かれる執行委員会において開催地の決定がなされる予定であることが報告された。

3. 規約改正問題について

理事長より、8月7日河田理事、秋月監事立会いのもと事務局で開票が行われたこと、および以下の投票結果が報告された。

[投票結果]

有権者数：1507名

(うち住所不明で差し戻し10名)

投票総数：795通(投票率52.8%)

有効投票数 659通

無効投票数 139通

(うち遅着によるもの2通、無記名によるもの134通)

[開票結果]

[議案Ⅰ]

賛成 636票 反対 22票 棄権 1票

[議案Ⅱ]

賛成 626票 反対 31票 棄権 2票

以上の投票結果を受けて、理事長より[議案Ⅰ]・[議案Ⅱ]ともに可決された旨報告があり、承認された。

4. 監事選任の件

理事長より、千葉監事の任期満了による退任に伴う監事の後任について、河野康子(法政大学)会員を推薦したい旨報告があり承認された。

5. 新入会員の件

以下の9名の入会と、1名の再入会が承認された。

新入会員 秋吉貴雄、今井照、大熊武行、
嘉戸一将、金官正、近藤康史、
西東克介、向山恭一、根本俊雄、

再入会 田中智彦

6. 日本学術会議の件

理事長より、日本学術会議より政治学研究連絡

委員3名の推薦依頼があり、本学会として加茂利男、蒲島郁夫、藤原孝の3理事を推薦したい旨報告があり、承認された。

7. 年報復刊の件

久米常務理事より、前回継続審議となった岩波書店からの年報復刊の申し入れにつき再度審議し、岩波書店作成の執筆者宛依頼状を、同意書同封の上発送することが承認された。

8. 事務局より

久米常務理事より、学会事務センターへの事務移管後も再入会手続きに関し、従来通り滞納分を納付後、理事会の承認を経て再入会を認めることとしたい旨報告があった。

2000年度第3回理事会記録

日 時：2000年10月7日午後1時～1時30分

場 所：名古屋大学

第三回理事会では以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 年報委員会

2002年度年報委員長の安理事から、年報のテーマを「20世紀のドイツ政治理論」、サブテーマとして「日本におけるドイツ政治思想及び理論の受容」とし、副委員長に田中治男(成蹊大学)会員に、委員として、谷喬夫(新潟大学)、加藤秀治郎(東洋大学)、小野耕二(名古屋大学)、永井健晴(大東文化大学)、住沢博紀(日本女子大)、古賀敬太(大阪国際大学)、和田守(大東文化大学)、寺崎修(慶應義塾大学)、山田央子(青山学院大学)の各会員に委嘱する旨の報告があり、了承された。

なお、北岡理事、加茂理事より前例に従い、特にサブテーマは設定しなくてもよいのではないかとの発言があり、安委員長よりこの方向で検討し、その結果は公募の際に発表する旨の発言があった。

(2) 企画委員会

2001年度企画委員長の藪野理事から、委員として石川捷治(九州大学)、伊藤光利(神戸大学)、川崎修(立教大学)、辻中豊(筑波大学)坪郷實(早稲田大学)、笠京子(香川大学)、依田博(京都女子大)の各会員に委嘱したい旨報告があり承認された。

(3) 国際交流委員会

国際交流委員長の蒲島理事より、副委員長に曾根泰教(慶應義塾大学)、小委員長には辻中豊(筑波大学)と小林良彰(慶應義塾大学)の両会員を委嘱し、今後、もう1名の増員を予定している旨の報告があり、了承された。

また、同委員長より、前回の理事会で2006年IPSA大会の日本の立候補について報告され、2001年の正式決定の後は、国際交流委員会として大会開催へ向けての体制づくりを行いたいので、協力を得たい旨の発言があった。

(4) 文献委員会

2001年度文献委員長の藤本理事より、委員会の構成については、次回の理事会にて報告する旨の発言があった。また、「研究業績自己申告のお願い」を次号の会報に掲載する旨の報告があった。

2. 前理事長の顧問就任推薦の件

堀江理事長より五百旗頭前理事長を日本政治学会の顧問に推薦したい旨の提案があり、満場一致で了承された。

3. 次回理事会開催の件

次回理事会は2000年12月16日(土)午後1時、

日本大学で開催することが承認された。

4. その他

新藤理事より来年度の立教大学での総会・研究会は、10月13日(土)14日(日)の両日に開催したい旨の報告があり、了承された。

2000年度 総会議事録

日 時：2000年10月8日(日)午後1時から2時

15分まで

場 所：名古屋大学

1. 開会挨拶

小野耕二理事(開催校・名古屋大学)

2. 開催校挨拶

奥野信宏名古屋大学副総長

3. 理事長挨拶

五百旗頭理事長

4. 委員会報告

御厨2000年度企画委員長、大嶽国際交流委員会委員長から報告があった。

なお藪野2001年度企画委員長、加藤節2000年度年報委員長、馬場2001年度年報委員長、飯島2000年度文献委員長欠席につき、小野理事より順調に進んでいる旨報告があった。

5. 決算・監査の件

久米常務理事より1999年度決算について報告があり、秋月監事より監査についての報告を受けたのち、承認された。

6. 予算案の件

久米常務理事より2000年度予算案について報告があり、承認された。

7. 規約改正の件

五百旗頭理事長より、規約改正にかかる投票結果について報告があり、[議案Ⅰ]・[議案Ⅱ]ともに可決された旨報告があり、承認された。

8. 事務局報告

久米常務理事より、(1)改正された規約を『年報』もしくはニューズレターに掲載する予定であること、(2)再入会手続は従来通りの手続きで

られること、(3)会費未納問題に関し報告された。

また、APSA「比較の視点からの女性と政治」ワークショップ日本側参加者一同から要望書が出され、アメリカ政治学会からの共催申し入れに対する日本政治学会の対応等につき質問がなされた。これに対し、小林(APSA担当)理事より、アメリカ政治学会の意向については事務局に伝えた旨の説明があり、つづいて理事長より、今回はアメリカ側の申し入れが急であり、また学会のシステム上からも対応が困難であったこと、学会は「女性と政治」の問題を軽視するものでなく、今後とも積極的に支援していきたい旨回答があった。さらに、『年報』の学界展望の形式につき質問があった。

9. 新理事長挨拶

堀江湛理事長

10. 役員選任の件

堀江理事長より、役員選任およびあわせて五百旗頭前理事長を顧問に推薦したい旨報告があり承認された。

2001年度企画委員長 藪野祐三(九州大学)

2002年度企画委員長 加藤節(成蹊大学)

2002年度年報委員会 安世舟(大東文化大学)

2003年度年報委員長 渡辺浩(東京大学)

国際交流委員長 蒲島郁夫(東京大学)

同副委員長 曾根泰教(慶應義塾大学)

選挙管理委員長 谷喬夫(新潟大学)

監事 河野康子(法政大学)

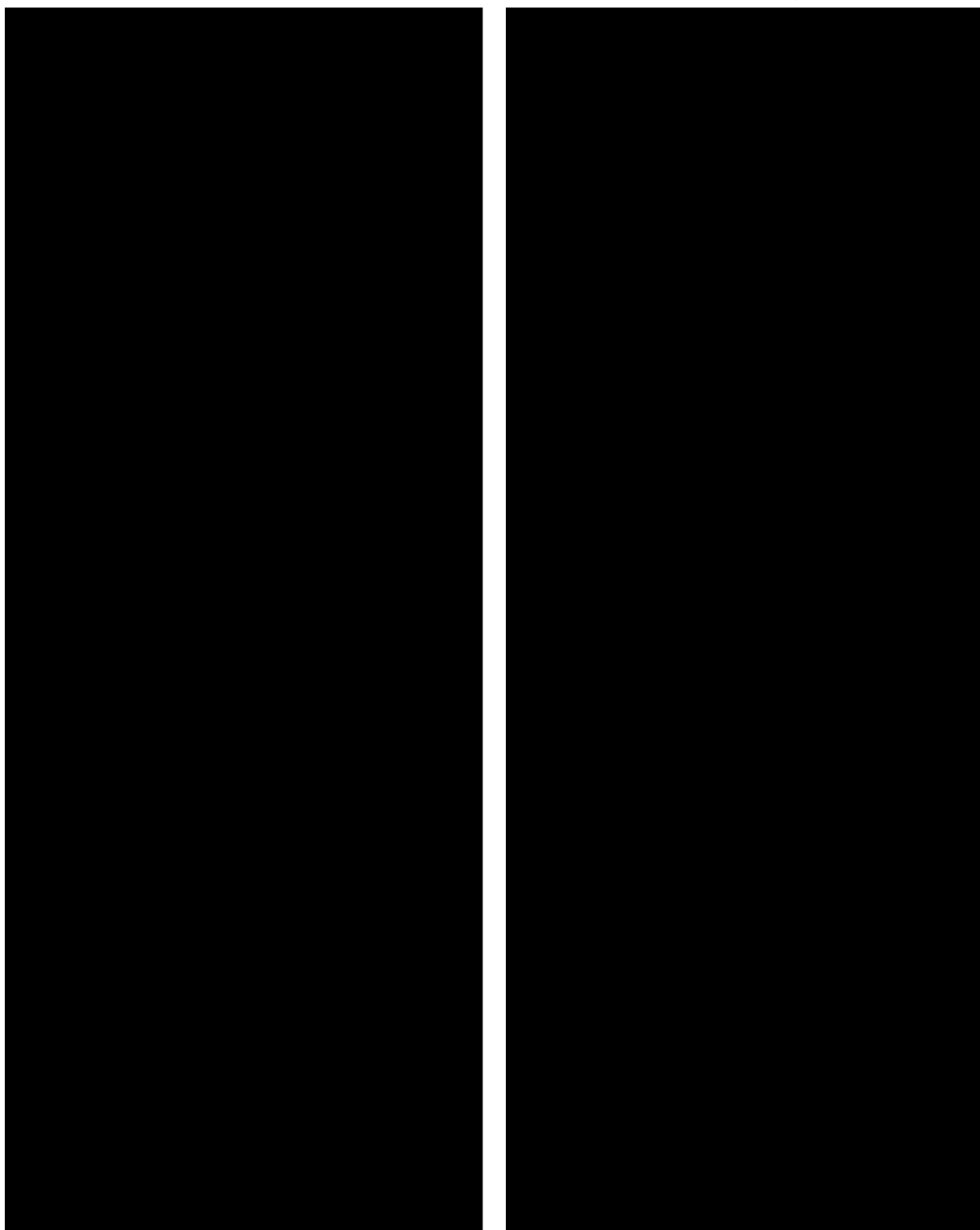
幹事 杉本稔(日本大学)

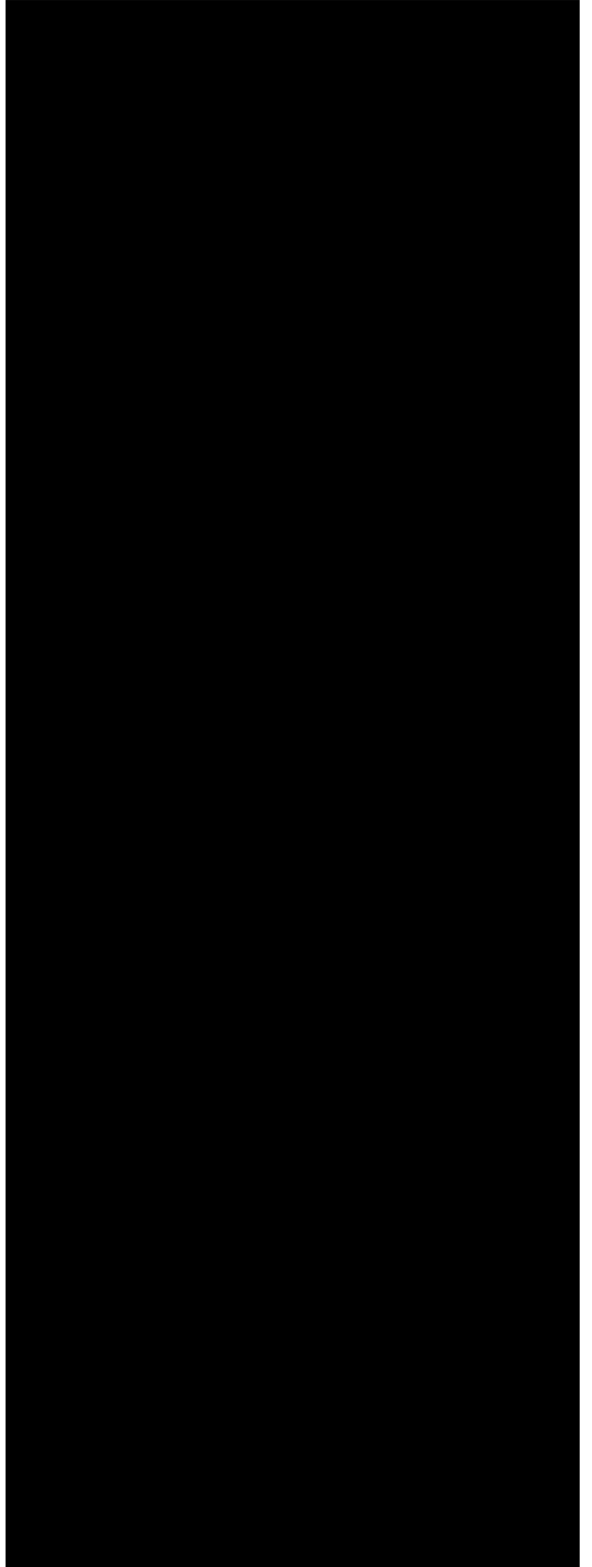
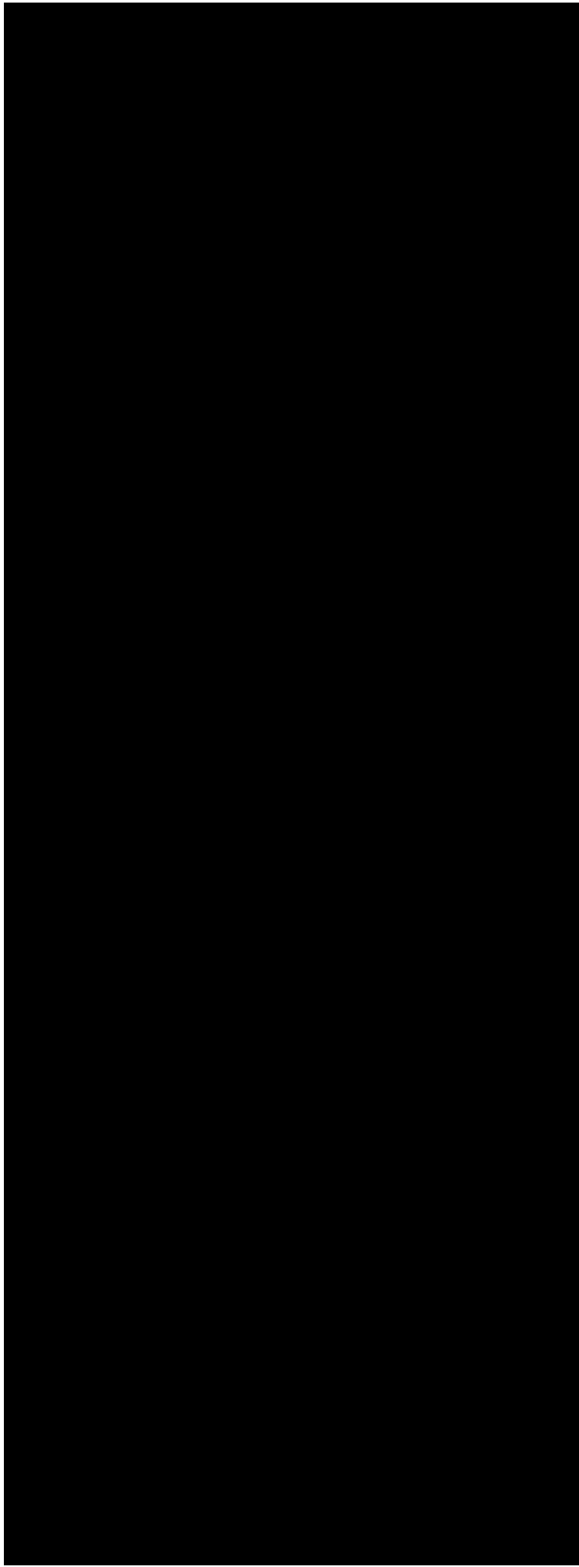
幹事 外山公美(日本大学)

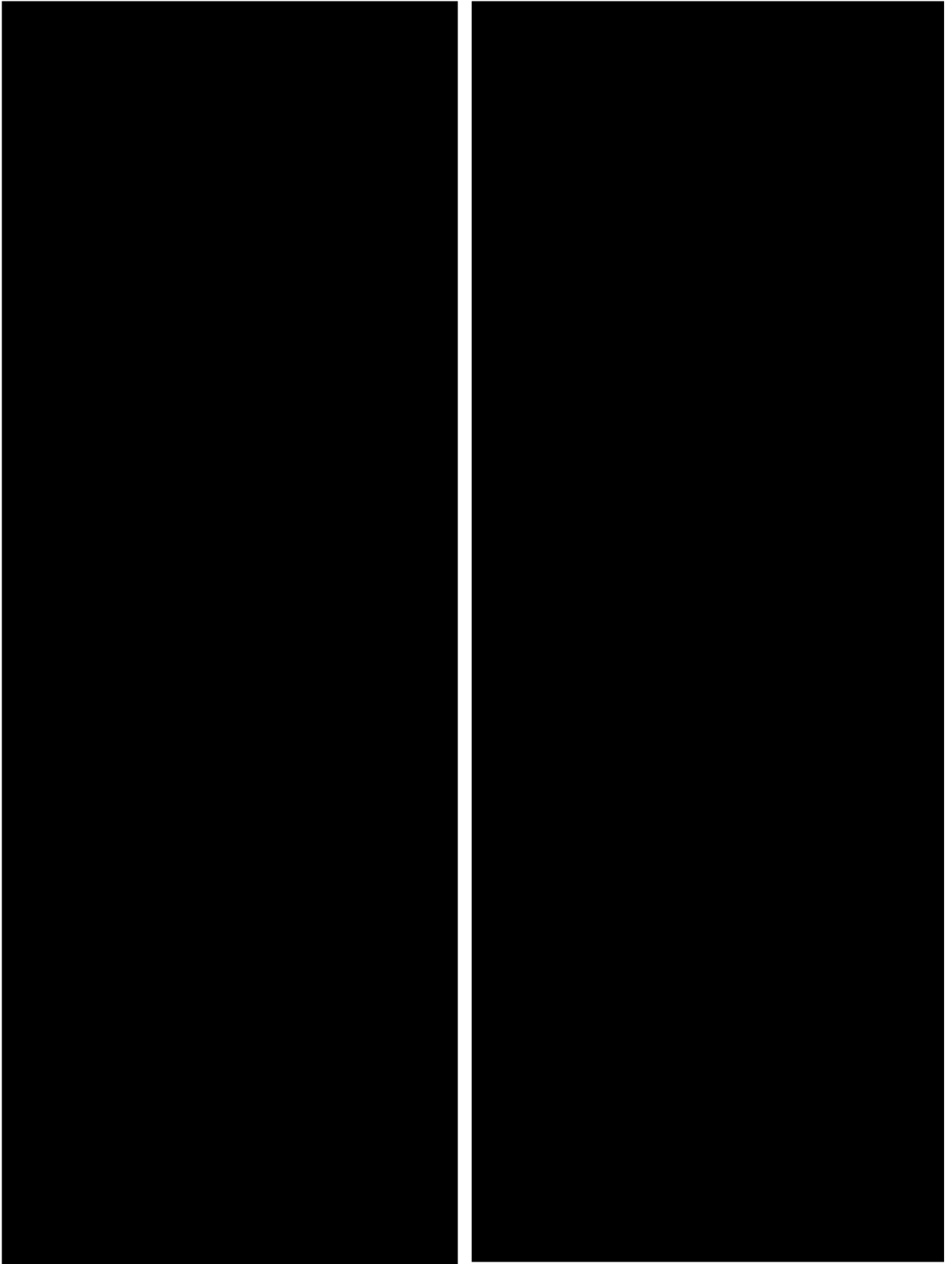
11. 閉会挨拶

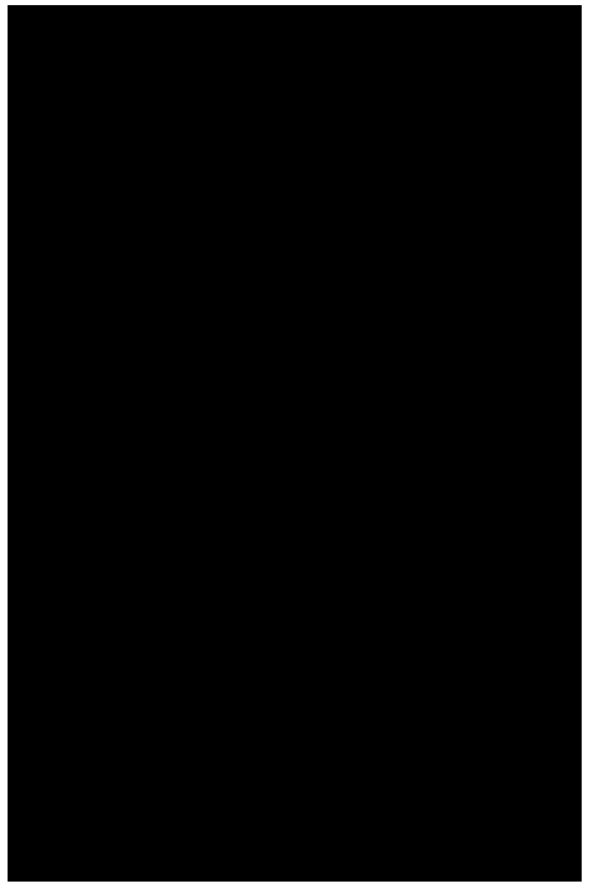
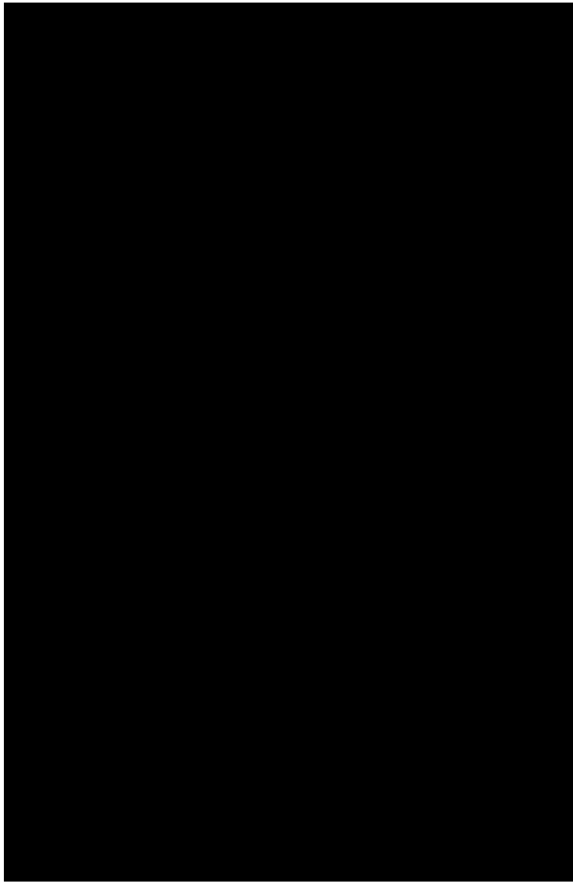
小野耕二理事

会員の異動









事 務 局 よ り

訃 報

・下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

- 赤木須留喜氏 行政学、日本行政官僚制 1923年生
北岡 勲氏 日本大学 教授 政治理論 国際政治史 1923年生
徳永 博圀氏 東和大学一般教養 教授 政治学・政治理論 政治行動論 1938年生
矢田 俊隆氏 北海道大学 名誉教授 独・奥近・現代政治史 現代国際政治史 1915年生
小笠原弘親氏 大阪市立大学法学部 教授 ヨーロッパ政治思想 1939年生

会費納入についてのお願い

年会費をまだ納めていただいていない会員の方が若干おいでになります。学会事務センターからのご案内させていただいておりますが、何卒速やかにご協力のほどお願いいたします。一般会員は7,500円、院生会員は5,000円です。

ご不明な点は学会事務センターまでお問い合わせ下さい。

事務局移転のお知らせ

2000年10月より、日本政治学会の事務局が神戸大学から日本大学へ移転しました。新事務局の連絡先は以下の通りです。

101-8375 東京都千代田区三崎町 2-3-1
日本大学法学部内
TEL & FAX 03-5275-8599

旧事務局に対する会員の皆様からの2年間のご厚意に感謝いたします。新事務局へのより一層の御支援をお願い申し上げます。

本号の目次

1. 理事長就任にあたって
堀江 湛 1
2. 2002年度『年報政治学』
論文公募について 2
3. 2001年度研究会企画に
関するお知らせ 2
4. 研究業績自己申告のお願い 3
5. 理事会記録 4
6. 総会記録 7
7. 会員の異動 8
8. 事務局より 12

2000年12月15日

発行 日本政治学会事務局

久米 郁 男

〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1
神戸大学法学部内

TEL 078-803-6770

FAX 078-803-6753

(財)日本学会事務センター

〒 113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
会員業務(退会、住所変更、会費)

TEL 03-5814-5810

FAX 03-5814-5825

印刷 (株) ニック